



あべの  
コミュニティシネマ  
vol.53

今回のあべのコミュニティシネマは、昨年ミニシアターでロングラン上映されたドキュメンタリー映画『人生フルーツ』です。  
建築家の老夫婦の日常は、誰もが憧れるスローライフの日々。ゆっくりとご覧ください

*Life is Fruity*

# 人生フルーツ

津端修一さん90歳、英子さん87歳 風と雑木林と建築家夫婦の物語



(C)東海テレビ放送

2018年**3月23日(金)**

- ①11:00-12:31 ②14:00-15:31
- ③18:30-20:01 (上映時間 91分)

## 阿倍野区民センター 小ホール (地下1階)

〒545-0052  
大阪市阿倍野区阿倍野筋4-19-118  
● 地下鉄谷町線「阿倍野」6番出口反対側すぐ  
● 阪堺上町線「阿倍野」下車徒歩2分

● 料金 ●

会員料金 800円  
当日料金 900円

(前売券の販売はございません)

こちらのチラシご持参で3名様まで  
会員価格でご鑑賞いただけます!







風が吹けば、  
枯葉が落ちる。  
枯葉が落ちれば、  
土が肥える。  
土が肥えれば、  
果実が実る。  
こつこつ、ゆっくり。  
人生、フルーツ。

## むかし、ある建築家が言いました。 家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない。

愛知県春日井市の高蔵寺ニュータウンの一隅。雑木林に囲まれた一軒の平屋。それは建築家の津端修一さんが、師であるアントニン・レーモンドの自邸に倣って建てた家。四季折々、キッチンガーデンを彩る70種の野菜と50種の果実が、妻・英子さんの手で美味しいごちそうにかわります。刺繍や編み物から機織りまで、なんでもこなす英子さん。ふたりは、たがいの名を「さん付け」で呼び合います。長年連れ添った夫婦の暮らしは、細やかな気遣いと工夫に満ちていました。そう、「家は、暮らしの宝石箱でなくてはいけない」とは、モダニズムの巨匠ル・コルビュジェの言葉です。



かつて日本住宅公団のエースだった修一さんは、阿佐ヶ谷住宅や多摩平団地などの都市計画に携わってきました。1960年代、風の通り道になる雑木林を残し、自然との共生を目指したニュータウンを計画。けれど、経済優先の時代はそれを許さず、完成したのは理想とはほど遠い無機質な大規模団地。修一さんは、それまでの仕事から距離を置き、自ら手がけたニュータウンに土地を買い、家を見て、雑木林を育てはじめました——。あれから50年、ふたりは、コツコツ、ていねいに、時をためてきました。そして、90歳になった修一さんに新たな仕事の依頼がやってきます。

本作は東海テレビドキュメンタリー劇場第10弾。ナレーションをつとめるのは女優・樹木希林。ふたりの来し方と暮らしから、この国がある時代に諦めてしまった本当の豊かさへの深い思索の旅が、ゆっくりとはじまります。



## ふたりのこと

### 修一さん

1925年1月3日生まれ。東京大学を卒業後、建築設計事務所を経て、日本住宅公団へ。数々の都市計画を手がける。広島大学教授などを歴任し、自由時間評論家として活動。

### 英子さん

1928年1月18日生まれ。愛知県半田市の老舗の造り酒屋で育つ。27歳で修一さんと結婚し、娘2人を育てる。畑、料理、編み物、機織りなど、手間ひまかけた手仕事が好き。

## ふたりの本



キラリと、おしゅれ  
～キッチンガーデンのある暮らし～



津端英子  
津端修一 著  
(ミネルヴァ書房, 2007)



あしたも、こはるびより。  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(主婦と生活社, 2011)



ききがたり  
ときをためる暮らし  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(自然食通信社, 2012)



ひでこさんのたからもの。  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(主婦と生活社, 2015)



ふたりからひとり  
～ときをためる暮らしそれから～  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(自然食通信社, 2016)

### 最新刊

2017年  
11月17日  
刊行

きのう、きょう、あした。  
つばた英子  
つばたしゅういち 著  
(主婦と生活社)

